

I 地域防災・減災の基本

1 本当の『自助』『共助』『公助』とは (減災は、自助行動が基本)

- 『自助』は『自衛』と考えましょう。大地震が発生したら、揺れている最中の数分間は家族も隣人も、ましてや消防・警察などの公助もあなたのところには来られません。あなたを助けるのはあなた自身です。(天は、自ら助くる者を助く【S.スマイルズ：自助論】)
- 『公助』は『互助』と考えましょう。自分が助けてもらうと同時に「私もあなたを助けられます」という気持ちが必要です。
- 『公助』は行政組織でなければ出来ない業務が多数発生します。行政組織には「自分達の町は自分達が守る。行政はやるべきことをやれ」と激励してやりたいものです。

2 避難行動・危険回避

- 災害の避難指示は、災害対策基本法により行政の長がその責任を負うことになっています。しかし、行政が市民個々の状態や地域の状況を把握するのは不可能です。現在では過去の教訓から、避難勧告や避難指示の発表を待たずに『早めの避難行動』を起こすこといわゆる『自主避難』が奨励されるようになりました。

3 避難行動の形態

- 指定避難所(地域防災拠点)への避難は適切に行い、自宅で生活可能な人は『在宅(居宅)避難』をしようと助言をしております。この地域は『一時避難場所』を昨年の訓練時に既報しており、昨年、本年ともにこの方向で防災訓練を実施しております。

4 『災害(被害)見積もり』と『点呼』と『町の防災組織(自主防災組織)』の役割

- 生命被害が多数発生した、またその恐れがある時は速やかに状況を把握して区長に報告しなければなりません。例えば、自衛隊や緊急消防援助隊などの支援派遣は災害見積もりに基づいて災害派遣部隊の規模が決定します。初動期で行方不明者7人が、約40時間後には50数人と膨らんだ例も有りますが、初動の対応組織力では間に合いません。要救援者数や行方不明者数は当該自治会(町の防災組織)から速やかにかつ正確に発信したいものです。
- 『町の防災組織(自主防災組織)』や『自治会・町内会』『地域防災拠点』の大災害時の役割は大切です。特に町の防災組織は、復旧活動の基礎になることを認識してください。『点呼』は、救援活動・復旧・復興活動を円滑に行うための基本行動です。広島土砂災害の被災地自治会長は、自治会未加入者の掌握が困難だったと嘆いておりました。

5 ちょっと一言

- ・ 地域防災拠点(避難所)には、炊飯機は有っても米は無い。(どうしますか?)
- ・ 小学校の体育館は、膝を抱えて約800人、寝具を敷くと約200世帯、通路も必要です。
- ・ 停電・断水。トイレもパンクします。(阪神淡路大震災の教訓)
- ・ 隣の火事は8分で自宅の火事に……。地震の時に火事を出さない。(関東大震災の教訓)
- ・ 『向こう三軒両隣』『隣保共同(協働)』、古い言葉ですが見直してみましょう。

本日の防災訓練には小学児童も参加しています。防災自助意識と防犯自衛意識は無関係ではない。

Ⅱ 子どもの見守り活動

子どもの安全確保・危機回避も『自助』『共助』『公助』

1 子どもの判断力・洞察力を高めよう。

- 怖いおじさんてどんな人 (過去の事件の犯人像)
 - ・意外 : イケメン・やさしい・親切・面白い・目のきれいなお兄さん
- 甘い言葉 : ペットを見せてあげる、あなただけ特別に…、モデルになってなど
義務・責任を課す言葉 : 道を教えてよ、地図を見てよ、一緒に来てよ、など
 - ・私は警察官。 ・新学期からあなたの学校の先生になります。
 - ・あなたの家族が病気(ケガ)会いたがっている。
- 『知らない人』: 子どもは、あいさつをした、ほほ笑み合う、言葉を交わすなどの関係ができれば『知っている人』になってしまう。
- 心理的安心距離は 120センチ以上、「おとなが両手を広げたくらい離れよう」(間合いをとる)
某テレビ局の「80センチ離れよう」は危険。(大人でも80センチは近い)

2 つかまってしまったら

- ・駄々っ子ポーズ : 地面に寝っ転がり手足をバタつかせる
- ・押し込まれそう、押される : 押されることに抵抗し反動を利用してスキを見て急前進する
- ・大声を出す : 腹の底から狼の遠吠えをする。(カナダNGO、『キャンプ啓発活動』)
ほかの子の遠吠え・大声には呼応し、大人にしらせる。
ピーピー、キヤーキヤーは逆効果また遊びの歓声と間違えられやすい。
- ・全速力で走る : ランドセルは捨てる。人のいる方に逃げる。
- ・助けを求める : 近くの家(子ども110番の家など)に駆け込む
 - ・扉を『手のひらバンバン叩き』5回以上で、(家人が出てくるまで)
 - ・場合によっては、植木鉢や硬いものでガラスを割る

3 予防行動

- 『後ろの目』 : 尾行などが気になる時は角を曲がる時の振り返りや道路ばたのガラスなどの映りで後方を確認する習慣をつける
特に、自宅到着の解錠時、マンションではオートロック解錠時
- 集団登下校の最後尾、特に下校時、一人になる区間
- 子どもの見守り・見回りは地域全体で行おう。(認知症高齢者の徘徊行動対策にも効果あり)
 - ・子どもの下校時に合わせた住民生活の効果
散歩、体力づくり、ペットの散歩、買い物、洗濯物の取り込み、道路清掃など
- 地域グループ・団体の『共助』『互助』体制構築 (『防災・防犯・福祉のコラボレーション』)
 - ・親父の会(防犯)と町の防災組織(防災)のコラボレーション(美西小・元石小は実施中)
これに、ペット飼育、公園愛護、老人会、ケアプラザ、民生委員などでネット構築を・・・